

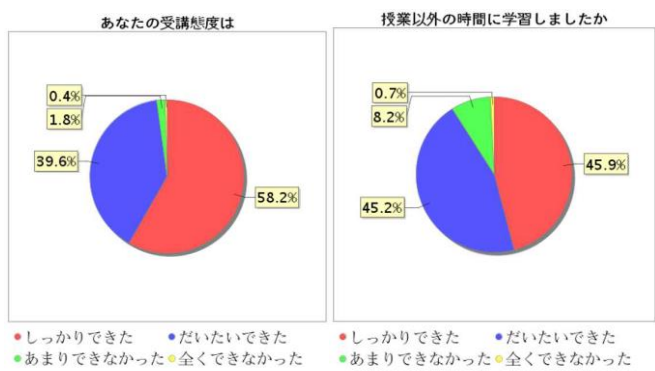
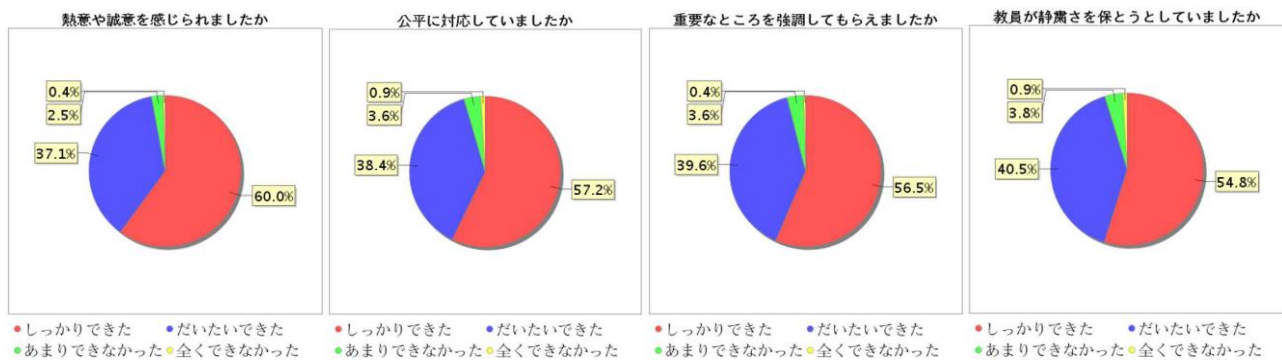
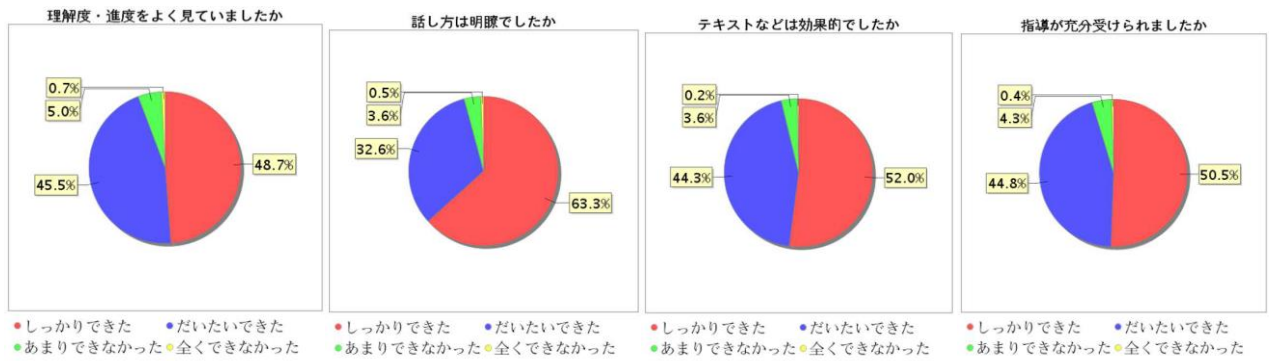
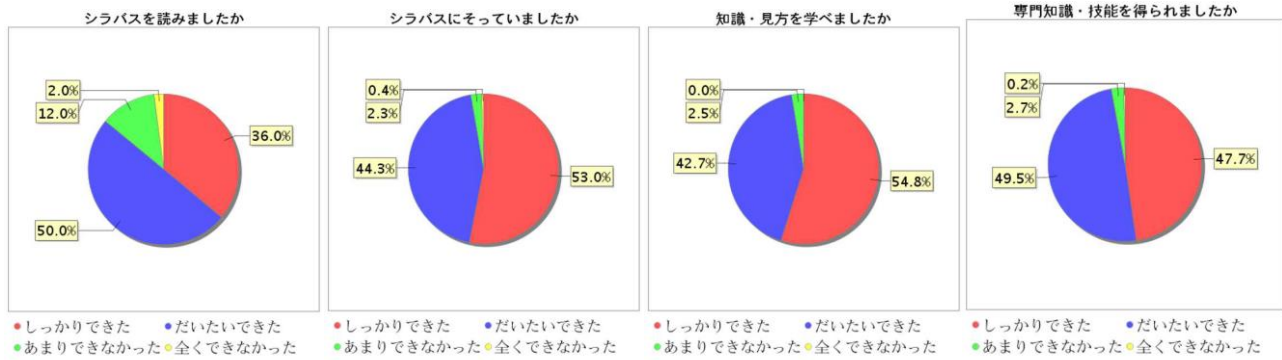
後期授業評価 『学生から教員の方々へ』

平成 30 年度後期に学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

□ 講義系授業の結果



□ 実技系授業の結果



<結果からわかること>

1. 総合的評価

総合的評価について、“とても良い”または“だいたい良い”と回答した人は、講義系 92.1%、実技系 97.7%となっており、多くの授業が学生によって肯定的な評価を得ていました。

2. 学生の自己評価

「受講態度」については、“しっかりできた”“だいたいできた”と回答した人は講義系で 91.6%、実技系で 97.8%と、昨年度前期と同程度に多くの方が肯定的に評価しました。学修成果の指標である「知識・見方」「専門的知識・技能」についても講義系で 92.6%、実技系で 97.2~97.5%の方が肯定的に評価しており、ほとんどの人が昨年度と同じように、新しい知識や技能の習得を実感していました。講義系の「理解」を見ると、88.4%の人は授業内容を概ね理解できており、昨年後期(83.5%)と比較すると理解度があがりました。

講義系の“授業以外の学修”については、他の項目に比べて達成度が低く、従来からの課題です。授業時間外の予習や復習が出来なかった学生は昨年度前期 24%、昨年度後期 28%から今年度前期には大幅に減少し、19.9%となったのですが、今回はまた 23.9%になってしまいました。引き続き単位制度の説明や教員からの呼びかけを行い、学修行動を促進していきたいと思えます。“シラバスを読んだ”人は昨年度と同様に、講義系で 81.3%実技系で 86.0%と多く、シラバスの確認は定着してきたようです。授業を受ける前に、授業目標や到達指標などを把握し、毎回の授業内容や小テストなどを踏まえて学修計画を立てて取り組みましょう。

3. 教員に対する評価

講義系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「文字の見やすさ」「重要なところの強調」という教授方法に関する項目に対する肯定的な評価は 88.6~92.8%で、多くの学生にとって満足度の高い授業であったようです。実技系の教員も、「話し方」「テキストの効果的使用」「重要なところの強調」「十分な指導」「公平な対応」が 95.3~96.3%と、昨年同様、高評価を得ていました。

教員の「熱意や誠意」「参加の促し」「静粛さを保つ」等の学生への働きかけについては、講義系で 86.1~94.5%、実技系で 95.3~97.1%と多くの学生から肯定的評価を得ていました。以上のように本年度後期も多くの教員が熱意をもって授業を行っており、学生にもそれが伝わっていることが示されました。

後期授業評価『教員から学生の皆さんへ』

平成30年度後期授業評価に対する教員（非常勤を除く）から学生の皆さんへの回答をまとめました。

【 幼児教育学科 】

◆ 社会的養護内容

1. 授業評価の結果に対するコメント

総合評価から検討すると、項目ごとにも及第点をいただいている。社会的養護内容は、前期の社会的養護の学修の積み上げに、施設内における子どもの生活や思い、関わる職員の心構え等を演習する授業となる。対象の学生は、児童養護施設のイメージが持ちにくく、分かりにくい箇所も多かったと思うが、それぞれの持ち得る知識や経験をベースにしながら、持続的によく学び続けてくれたのではないと思う。今後も今回の授業評価の結果に満足せず、引き続き、学生が満足できる授業へと努力をしていきたいと思う。

2. 今後の授業における目標

より具体的に理解ができるように、資料等や映像を活用しながら授業を進めていきたい。

配布資料の改善に心がけていきたい。

講義スタイルのさらなる進化を心がけていきたい。

ミニ演習等を効果的に取り入れ、効果的な講義となるよう心がけていきたい。

学生と教員のコミュニケーションを大切に努めていきたい。

3. 受講学生に対する要望

3年生になると施設実習が実施される。講義系の学習は、どうしても受動的になりやすく、配布資料の書き込みだけで終わってしまうことが多いように思うので、各地域での施設のお祭りなど行事がある場合は、ボランティアとして積極的に参加するなど、授業時間外の学習の充実に取り組んでほしい。そして、現場の生の姿から、大学では学びきれない実学を学んでほしい。

◆ 音楽Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

全体的に良い評価を得たことについてはよかったですと思います。コメントもたくさん書いて下さりうれしかったです。この授業は、直接的に保育現場で必要でない内容もあり、難しいと感じる学生も多かったのではないかと思います。しかし、学生の皆さんが理解しようと努力されていた様子が伝わりましたし、授業しやすい雰囲気をつくってくれたことに感謝します。

音楽関連の授業は経験値によって進度の差が出やすい分野ですが、どの学生さんにも分かりやすいように、丁寧に授業をしていきたいです。

2. 今後の授業における目標

難しい内容が多いため、資料の提供方法を検討し、分かりやすい授業展開をしていきたいです。また、個々の理解度も把握しながら、一人ひとりに声かけをし、全体にレベルアップをしていきます。

3. 受講学生に対する要望

欠席せずに受講してほしいです。欠席した時は、事後のフォローを各自でしっかりとしておいてください。またレポート提出等は成績評価項目になってきますので、認識しておいてください。

◆ 乳児保育

1. 授業評価の結果に対するコメント

学科平均よりも高い評価の値となりとても満足しています。

今年度はA301教室にPC設備が整ったので、授業にパワーポイント資料と書き込みシートを用意し、テキストも参考にした形の授業を工夫しました。授業コメントに「資料が見やすかったとあったのは、努力が報われたと感じとてもうれしかったです。他にも、語りかける話し方とか熱意が伝わる、声の大きさ、滑舌がよいなど、励まされる言葉が多くあり、受講するみなさんの感性や心のやさしさをあらためて知ることができました。

今年度から、保育指針が改定され、乳児保育の内容が大変重視されるようになったため、未満児保育の大切さやお世話の仕方など多くの内容を伝える努力をしました。2月の保育実習に向けて自分がもし担当したら・・・といつも考えていた人や、今発達している子どもその人のことを常に想像して意欲的に授業に取り組んでもらえたことを幸せに感じています。

2. 今後の授業における目標

0,1,2歳児の発達は目をみはる早さです。その一つひとつは人間の一生を決めてしまうほどの重要なもので、育て関わる大人はそうしたことを知っていかなくてはなりません。

保育園の未満児はもちろん、0,1,2歳児との触れあい方、遊び方など具体的に保育に役立つものを考えたいと思っています。全体のスタイルは来年度も概ね同じように行う予定です。保育所にいる子どもたちの中で、お話をすることがまだできない“未満児”と呼ばれる乳児に対して、“寄り添って保育する”とはどのようなことなのか、養護性を大切にする生活の細かい内容や発達に沿った遊びの展開などあらゆる角度から理解し実践できるようにしたいと思います。今年度の研究成果を基にして多様化する保育現場についての情報も伝えながら、1年次現在での将来について考える機会を持てるようにしたいです。2年次の子育てサロンへの参加へつながる子育て支援についても触れていきたいと思っています。

3. 受講学生に対する要望

「育てられるものから育てるもの」へ変化していく時であることを繰り返し伝えていくので、しっかりと考えて行動できるように願っています。

安全に対する配慮だけでなく、おらかな心とやさしい気持ちを持つことは乳児を保育する者にとって何よりも大切だと考えています。自分自身によりイメージを持って授業に臨んでほしいと思います。

◆ 保育内容(環境)

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・講義だけでなく、実習園での環境構成や活動につながるような授業構成を心掛けた。
- ・学生が子どもたちと一緒に楽しむことのできる活動の経験値をあげるための「泥だんご作り」や演習を多く取り入れたことに対するコメントや評価があったのがよかった。
- ・保育者として子どもたちと一緒に楽しく遊ぶことが大切さを学んだという意見がたくさん聞けてよかった。
- ・実習や現場で活かせるよう意識して授業に取り組んだので、実習につながるコメントが嬉しかった。

2. 今後の授業における目標

- ・保育内容「環境」において、再課程認定の中で、演習・五感を通しての直接経験を取り入れることが

求められている。今まで以上に、みずきの郷やグリーンカーテンなど、可能ならば地域も有効利用して、実習や現場に出た時の経験値があがるような授業内容を工夫していきたい。

3. 受講学生に対する要望

- ・真面目にほとんど休まず、出席していることが大いに評価できる学年である。
- ・“自分のやりたい”遊びを言葉にし、主体的に授業に取り組む姿勢がみられ、大いに評価でき、とても楽しかった。
- ・今後も意欲的で楽しむ気持ちで授業に取り組み、実習や現場に活かせるように学びを深めて欲しい。

【 音楽総合学科 】

◆ リペア応用（木管Ⅰ）B

1. 授業評価の結果に対するコメント

総合評価では全学平均 3.5 点、学科平均 3.7 点、担当科目 3.6 点であり、自己の取組に対する評価での「学ぶ」が高い所は非常にうれしく思っています。

また、自由記述での「質問に対してしっかり答える。」や「授業以外で学ぶ事が多かった。」という意見があり、わからないことをそのままにせず解決させる様努力した結果と考えます。

2. 今後の授業における目標

例年だと、批判的なコメントもあるのですが、今回はそれも無いですが、学生一人一人にしっかり向き合って行きたいと思えます。

3. 受講学生に対する要望

自己の取り組みに対する評価で、シラバスについてが 2.9 点と非常に低く、授業内でシラバスについて数多く説明して行きたいです。

◆ リペア基礎（金管）Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

全体的に概ね高い評価については良かったと思うが、シラバスについての関心や授業外の学習においてはまだまだ向上の余地はあると思う。入学当初のみでなく日頃よりシラバスの重要性をわかりやすく説明し、確認する習慣を身に着けるようしたい。授業外でも率先して復習などに取り組む環境作りを早い段階で行い、技術の向上に努めたい。

教員の取り組みについては、全体の中で「雰囲気」が低い評価になっていた。今後の授業の環境作りの為、しっかりと1年を振り返り問題点を見つけて改善し、学生一人一人に満足していただける授業作りに邁進したいと考える。

2. 今後の授業における目標

授業全体の雰囲気を大切にして、厳しい中にも楽しさを取り入れ全員が前向きに取り組めるような工夫し授業に集中できるような環境作りに努力したい。また、コミュニケーションを取るのが苦手な学生においても積極的に声を掛けて意思疎通が出来るような関係づくりを心がけたい。

3. 受講学生に対する要望

すべて初めて学ぶ技術や知識などで、多くの事を覚え身につけていかなければなりません。疑問や質問などは後回しにせずその場で解決してください。覚えた技術を身につける為には何度も繰り返し同じ作業を行うしかありません。授業外の時間等を有効に使ってもらいたいです。

【 歯科衛生学科 】

◆ 小児歯科

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生から教員の取組みに対する評価において、「シラバス」「話し方」「資料の活用」「文字や書き方」「重要な点の強調」「熱意や誠意」「学生の授業参加」の7項目（全8項目中）において、3.2点から3.5点（4点満点）の評価点であり、いずれも学科の平均以上の結果で学生からの良好な評価を得た。また、学生自身の自己の取組みに対する評価においても、「シラバス」「学ぶ」「学修理解」「授業態度」「授業外学修」の学生自身の評価で3.1点－3.3点（4点満点）であり、5項目全てにおいて学科の平均を上回る結果で学生からの良好な評価を得た。

2. 今後の授業における目標

予習・復習を含めて授業時間外での課題設定を実施し、学生と教員との双方向の授業に努める。学生への質問やグループワークによる学習の導入を今後も実施する。授業の中で「どの部分かわからないか」、「わかりにくかった点を再度説明してほしい」、さらに「自分でここまで調べた結果、なおわからない点がある」というように、質問する意図を学生自身が明確化し、質問しやすい授業の雰囲気にしていくように取組みたい。学生自らの学習意欲を引き出す「正の強化による自発的行動変容」に、よりいっそう力点をおいた教育を継続的に展開していく所存である。

3. 受講学生に対する要望

将来の歯科衛生士として歯科医療を担う一員となる自覚を十分にもって、受講態度に気をつけるとともにシラバスの記載通りに予習・復習をしっかり行って授業に積極的に出席する事。

各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館やWEB等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、石川研究室（G204）まで問題点を整理して聞きにきてさい。

◆ 歯周病予防技術法Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

『歯周病予防技術法Ⅱ』は、実際に器具・器材を使用し実習を行っている。「この科目を受講して良かったところ」で、技術の修得ができたというコメントが多くあった。自分のスキルが明らかに上がったと感じている学生もいて嬉しく思った。その反面、「この科目を受講して改善したほうが良いところ」で実技の指導がほしいとのコメントもあった。全体を把握し、進めて行くよう努力したい。

2. 今後の授業における目標

器具・器材を初めて使用するにあたり、正しい知識を修得できるよう、学生の理解度を把握する。3名の教員で実習をしているので、打ち合わせを今まで以上にしっかり行い学生全体を把握するよ

う努める。

「自己の取組に対する評価」においては、全学・学科平均点より低かった。意欲的に学べるような授業展開を考えていきたい。

3. 受講学生に対する要望

実技を修得するためには、授業外でも練習が必要である。自主的に練習をして学んでほしい。分からないことがあれば、積極的に聞きに来てほしい。

【 看護学科 】

◆ 成人看護学概論

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業評価の結果は、全学評価と概ね変わらず平均的であった。単なる知識の教授ではなく、より具体的に理解してもらうために、経験を生かした実例などを伝えることによって、理解しやすくなったり、興味をもてたのではないかと考える。

反対に実例や関連した話を雑談と捉える学生がいたが、講義の流れを聴いていないために、そのように感じたであろうことが推測される。集中できる時間は限りがあるが、時間調整を上手くしながら、学生が集中力を切らさないように組み立てを考えていかなければならない。

2. 今後の授業における目標

次年度は、学部となり初年度に講義はないが、今後は講義前に前回の内容の理解確認のためになんらかの方法をとることや、一部反転授業をとりいれたりしながら、学生が主体的に学んでいく体制を整えたい。

3. 受講学生に対する要望

単位を取得するための学習をしている学生が多々見受けられる。単位取得も重要な課題であることには間違いはないが、概論はその後の成人科目（急性期・慢性期）の基礎になることから、しっかりと理解をしてほしい。また、受動的な受講態度ではなく、能動的態度で臨んでほしい。

◆ 看護関係法令

1. 授業評価の結果に対するコメント

昨年度は学生のグループワークへの取り組みに、グループや個人に差があったこと、自分自身が学生の取り組みを全て確認することができず、評価しづらい状況であったことをふまえ、グループワークへの取り組みに関する自己・他者評価を実施した。実施後のアンケートでは、自己評価について、自己を客観的にみることが難しいと感じている学生がいる一方、「自分のことを振り返ればいいから・自分のことは自分がよくわかるから・今までもしたことがあるから・分かりやすい評価方法だったから」など、自己評価は難しくないという意見が多くあった。また、評価を実施したことで評価を上げるために努力した学生が多く、「積極的に意見を言ってみようと思った・次はもっと頑張ろうと思った・次はどうグループ内で関わるか目標が持てる・自分がどれだけ GW に取り組んだか明確になった・準備不足や弱点を見直すことができた・GW に参加する意欲が高まった・協調性がでた」と感じ

ていた。他者評価では、「悪い評価をつけづらい・グループ全員を見られない・よく観察しなければならない・他者評価をした経験があまりない・自分の基準でいいのか分からない・日ごろの仲間意識がでる」など、他者評価は難しいと感じている学生が多かった。難しくないと感じている学生は、「同じグループのメンバーを評価すればいいから・そのまま正直に評価すればいいから・よいところ、悪いところを評価し次のGWでみんなで取り組めるから・GW参加度はメンバーが一番分かるから・意欲の差が明確だったから・積極的に取り組んでいたから」という思いを持っていた。今回事前に評価内容・方法を説明し実施したが、理解を得られていない学生が多かった。このことは次回の課題であると考え。しかし、評価することで評価しないGWより取り組みが積極的になり、自分の意見を伝える努力や、人の意見を聞く努力をした、と答えた学生が多かった。また、チームに協力しようという思いや、高い評価を得たいという思いを持つようになったとも答えていた。アンケート結果より、GWに自己・他者評価を用いたことは成果があったと思われるが、総合評価は平均的評価を下回る結果であり、来年度は今回のアンケートから得られた課題を解決し、学生の興味、理解を得られる授業展開をしていきたい。

2. 今後の授業における目標

今期も学生の主体的な学習を促すために、グループワークに重点を置き授業を展開した。今回のアンケートから得られた問題を分析し、グループメンバーの構成や進め方を工夫し、学修目的を明確にし、学修効果を高め学生の満足が得られる授業となるようすすめていきたい。

3. 受講学生に対する要望

看護専門職となるべく学んでいることを忘れず、主体性を持って授業に臨んで欲しい。

◆ 小児看護演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・学生が自ら学び・考えることができるよう、今年度は、まず課題について学生が個々に取り組み、授業で他学生とディスカッションし自己の課題を追加・修正し仕上げる形式をとってきた。学内・全学に比べると0.1~0.3ポイント低い項目もあるが、自由記述の内容や授業後のレポートでは「~ができるようになった」「考える力がついた」などの意見が多く、学生の自己の取り組みについては概ね満足できるものであった。
- ・学生ひとりひとりの成果については課題や定期試験で確認した。しかし、補足が必要な点について指導する時間が十分取れなかったため、今後考慮していく必要がある。
- ・今年度はDVDを利用し、事例がイメージしやすいよう工夫した。また、1単元の項目を減らし時間をかけ、学生間のディスカッションに対し補足説明を行った。講義後のレポートでも「わかりやすかった」との意見が多く学生の理解を促すことができたように思う。
- ・教員間での意見の相違があり、学生を戸惑わせることがあった。教員間での打ち合わせの時間が十分とれなかったことが反省点である。

2. 今後の授業における目標

- ・学生の自ら学び考える力が強化できる授業展開を今後も考えていく。
- ・学生の成果について指導できる時間を設けていく。
- ・教員間で指導内容を統一できるよう、協議していく。
- ・小児についてイメージできるよう、指導方法を工夫していく。

3. 受講学生に対する要望

- ・「見本」や「答え」を求める学生が若干名いる。まずは自分で取り組む姿勢を身につけてほしい。
- ・授業中自ら発言する積極性を身につけてほしい。
- ・わからないことをわからないままにしている学生が多い。疑問点はそのままにせず、教員に質問してほしい。
- ・解剖生理や病態学など1年次で学んだ知識を十分につけた状態で講義に臨んでほしい。

◆ 治療支援技術論

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・講義の前には教科書の動画を見て自己学習をしてくることを課題とし、授業を受けたことによりイメージを持って授業に臨めた。
- ・講義で根拠をおさえ、その後に技術の動画を多く見せたことにより理解が深まったと考える。
- ・注射針を使用する演習であったため、注射準備は基礎の教員全員が入り指導にあたった。学生に対して、より技術面での個別的な指導につながったと考える。

2. 今後の授業における目標

- ・基礎の演習は補助の教員も入るため、技術面に関しては個人によって多少の差がある。演習前に演習計画を練り、教員調整を充分に行いよりわかりやすい演習を目指したい。
- ・注射は注射モデルを使うため、援助を受ける相手への配慮する意識が薄れがちになる。初めての注射の技術演習であるため、手技に集中してしまうため、演習の中で声をかけながら意識づけしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

- ・演習時にしか、アンプルを切って薬液をつめる、注射を行う練習はできないので、しっかり演習内の時間を使って繰り返し練習してほしい。

◆ 母性看護演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・母性看護学特有の看護技術が習得できたと自己評価する学生が多くみられたようで、技術演習を講義の後に取り入れ、技術に関する小テスト、技術チェック、グループメンバーとの意見交換により学びに繋がったと考える。
- ・授業外の自己学習課題に取り組むことにより、知識、技術の定着につながったと考え、今後も課題提示は必要であると考え。

2. 今後の授業における目標

- ・初回授業の際に、授業計画の説明および各回の課題について説明を行っていたが、シラバスの活用がされていなかった。今後は学生が主体的にシラバスを確認し、自主的に事前学習等に取り組めるよう促していく。
- ・母性看護に関する社会情勢は日々変化しているため、学生が幅広い視野で物事を考えることができ

るよう情報を与えていきたい。

- ・技術演習では実習を見据えた内容であるように、現場に即した場面を設定していきたい。
- ・シミュレーションモデルを有効に活用し、技術の定着を図りたい。

3. 受講学生に対する要望

- ・授業以外の時間にも積極的に技術演習に臨んでほしい。

【 総合教育センター 】

◆ 心理学

1. 授業評価の結果に対するコメント

総合評価は、全学平均、学科平均ともを上回り、かつ、前年度の自身の評価から 0.3 ポイント上昇していました。昨年度よりも授業を工夫し、時間をかけて準備をしたという実感はありましたが、客観的に見ても学生にとって満足度の高い授業を行うことができたのだとわかり、嬉しかったです。詳細を見ると、「文字や書き方」の項目が 0.5 ポイント上昇しており、毎回のミニツペーパーで学生の意見を聞き、その都度要望に応じて内容や形式を改善した効果が表れたようです。やはり自分で考えたことだけでは限界があり、聞き手である学生のみなさんの率直な意見を聞くことは大切だと痛感しました。

2. 今後の授業における目標

授業評価の結果から明らかになった改善点は、授業に取り組む雰囲気づくりです。この点について、ミニツペーパーのコメントなどから推測される原因は、自由席での授業実施だと思われます。本学では多くの授業が指定席で実施されているため、自由席は学習に取り組む雰囲気から外れるものだと捉えられているのかもしれませんが、しかし、心理学という科目の特性上、個々の学生が自分自身にとって居心地の良い場所で授業を受けることは大切なことだと考えています。また、授業内容について、時には周囲の友達と意見や感想を交換し合う機会も持ってほしいので、今後も自由席で授業を行うつもりです。この形式を守りつつ、授業に取り組むのに最適な雰囲気を作るのが今後の課題であり、学生の状況を見ながら工夫していきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

学生のみなさんに「この授業を受けて、ものの見方や考え方が変わった」と言ってもらえるよう、日常生活に関連の深い事柄を心理学の知見で説明しながら授業を進めていきます。授業で習ったことを教室の中だけで終わらせるのではなく、日々の人との関わりの中で、また、自分自身を生きる中で、ふと思い出して活用できるようにしてほしいです。

本学の教職員は これからも
学生のみなさんの学びをさらに深めるために
よりよい授業づくりへの努力を続けます



学生のみなさん、授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。授業は教員が行うものですが、そこに学生の皆さんが居てこそ成り立つものです。学生にとってより良い授業を実現させるためには、教員による質の高い授業の実施、そして学生の真摯な取り組みと率直な声、それを受けての教員の授業改善、という循環が不可欠です。毎年実施している学生による授業評価とその結果へのコメントをはじめとして、日ごろの授業の中でも教員と学生とで良好なコミュニケーションを行って、大垣女子短期大学の特色を生かした授業を一緒に作り上げていきましょう。



総合評価が高かった教員を対象に顕彰が行われています。
平成 30 年度後期は以下の教員が顕彰の対象になりました。

「社会的養護内容」
「絵本」
「リペア応用（金管ⅡB）」

